

わたくし紹介

わたくしは健康平和祈ります。

わたくし、世界の現実を認識したい。そして健康生活と平和社会を実現したい。生活提案芸術を応援したいです。

わたくし、性欲・食欲・現金預金欲・名誉欲もたっぷりあります。現実認識欲・健康平和欲がさらさらたっぷりあります。不平不満を述べているのみならず世界健康平和修正の笑顔となります。

資本制社会の末期において生活をさせていたいただきありがとうございます。相互生産制社会を開拓していく生活をさせていただきありがとうございます。相互生産制社会は、生理の必然と認識の理の必然を理解し、また物理の必然を理解して、世界運営する社会です。健康平和な厳格平等な修業競争の制度がある社会です。おたがいの健康生活を自覚的に生産しあえる社会です。

わたくし、生れも育ちも尾張の中村です。1956年3月25日生れ男性です。日吉丸のちの豊臣秀吉が生れた家を記念する神社へ自転車にて遊びに行く少年時代でした。父方の祖父母は小山姓、母方の祖父母は桑原姓、次男坊の父は浄土真宗の坊さんの家へ養子に出られて、山田姓となりました。

わたくし、本名を山田哲と申します。ただし、哲は社会党の首相、片山哲からとった名です。わたくしの政治的立場は片山哲に反対です。また、わたくしの学問の先生、三浦つとむの立場は哲学不要論です。父母の想いはありがたいとして、哲じゃあまずい。

わたくし、筆名を山田学と申します。哲には悟るという意味があり、わたくし悟っていません。死ぬまで学ばせていただきたいと思います。

とJOMON、哲学不要論じゃあまずい。わたくし、1994年に『学問の転換』を著しました。学問には論理学と科学とがあり、科学には生活学と生産学と自然学と宇宙学とがあるとなりました。わたくし、現実認識欲がたっぷりあります。

2006年の月には、よの精妙な考えをまとめた書きました。学問には論理学と主体学と客観学とあり、主体学には道徳学・経営学・政治学・伝統学とあり、客観学には物理学・生理学・認識学とあります。

難しい話はさておき、わたくしの趣味はカラオケです。日本の歌謡曲が明るいイメージの1970年代が青春でした。でも、スウェーデンのABBAも好きでした。わたくしの大学の学生寮の同部屋の「お」君が、ちょっと前衛

の演劇をやっていました。ABBAは、まあ、人畜無害だねと、彼はわたくしを軽くあしらいました。

わたくし、中学と高校は名古屋大学教育学部の附属、つまり名大附属でした。東京で「めいだい」と言っていると「明大」ですが、名古屋で「めいだい」というと「名大」です。名大附属は教育の新しい可能性を実験する教育実践校です。わたくし個人の印象として言えば、とても明るい学校でした。わたくしは、軟式野球部のライオン君でした。ライトと8番しかできない、あるいはそれ以下なものでした。それでも、練習が終り、放送部の部員が下校放送に流すカーペンターズの「close to you」というフレーズが幸せなものでした。学校が平和な時代でした。わたくしは、興味本位に良く勉強しました。父母が受験勉強に反対だったから、かえって良く勉強しました。わたくしの世代は全共闘世代と新人類世代のはざまにあり、あまり発言しない世代、でも、子ども時代の「Vヒーロー」から「ウルトラマン世代」と呼ぶ人もいます。この「ウルトラマン世代」の中には、静かに学問を積み重ねている人もいるのでないでしょうか。今の日本と世界のとてもない難局を乗り越えていくには、現実論としての深い深い学問が必須です。ただし、受験秀才ほど細部の現象にとらわれるよう、教育されている傾向もあります。

父は変った人でした。わたくしは受験を意識していませんでしたが、受験向けの成績としては、二流でした。そんなある日、父はわたくしに言いました。「おまえ、東大だけは行くなよ。おれは権威主義反対だ。行くんなら、マサチューセッツ工科大学と交流している東京工業大学へ行け。」その後わたくしは一浪し、結局東京大学へ入り、結局東京大学を中退しました。父は、陸軍士官学校在学中、ソ連参戦によりもつとも苛酷なシベリヤ石炭掘り現場の捕虜となり、しかし、その捕虜現場にて「仕事改善提案」が通り「労働英雄」という称号まであたえられた、過去がありました。

わたくし、東京四ツ谷の文化放送の近くにある駿台予備校四ツ谷校舎に通いました。わたくしも変って来て、受験勉強というものがとても新鮮であり、夢中になりました。暗い受験生をケラケラ笑わせる奥井という名物英語教師がいて、とても好きでした。神楽坂の近くの新宿区矢来町にある予備校生専門の「三畳一間の小さな下宿」から、毎日片道30分歩いて通いました。南こうせつ『神田川』をわたくしに歌わせることそれなりにリアリティありますよ。通学路の途中に4年前の三島由紀夫事件の市ヶ谷自衛隊の門がありました。理科系のわたくしとしては関心がありませんでした。それより、東京の雑踏

にまぎれ、歌を口ずさむことが好きでした。『襟裳岬』の「身構えながら話
 なんてああおくびようなんだよね」とか…。駿台の進路指導の人が驚くほど、
 成績が伸びました。偏差値が東工大を軽くクリアし、東大理Iに余裕あり、
 慶大医学部に迫りました。「なぜ慶大医を受けないのか？」と進路指導できか
 れ、「医者嫌いです」とつぶやきました。苦笑いされました。でも、父の
 「権威主義反対だ。」ということばを忘れ東大へ行きました。

東京大学理科I類に合格したということはもちろん、人格者として合格し
 たということではありません。

大学に入ったら、さらにこちら本位の自由な研究をしようと考え、行動し
 ました。それが世間体としては誤りへの道であり、でも、今となってみれば、正
 しい道でした。

まず、井の頭線の「駒場東大前」駅のホームからよく見えるでっかい看板
 に2年先輩の方が情熱的な勧誘文を書いていたポーター部に、入りました。西洋
 から入ってきたスポーツとして、ポーターは、野球より早いものでした。

高校2年の時にもしろく読んだ、講談社現代新書の『弁証法はどういう
 科学か』の流れで、三浦つとむ先生の著作に学び続けました。三浦つとむフ
 ンなのでした。

大学2年目の夏、埼玉県戸田にある、艇庫と称するポーター部合宿所のザコ寝
 の大部屋で、寝ている頭が近かった文科I類の「や」君が読んでいた、ヨガ
 の本に興味をもちました。からだがかたく硬く運動神経が鈍いわたくしがとてもハ
 ードなポーター漕ぎをやり、からだどこころの関係についてあれこれ思うようにな
 っていました。その後の人生において、「や」君よりわたくしのほうがその本
 の沖正弘師に夢中になりました。

大学2年目の秋、艇庫の各自ベットがあたえられた部屋に移り、これも
 文科I類の「う」君が読んでいた梅棹忠夫先生の『知的生産の技術』を借りて読
 み、その中に紹介してある川喜田二郎先生の「KJ法」に興味をもちました。
 その後の人生において、「う」君よりわたくしのほうが市民に開放的な川喜田
 二郎先生と親しく交流させていたのだとよくなりました。

ポーター部1年目のころは、強いはずの東大ポーター部が数年間全日本優勝で
 きず、ちよっと暗い雰囲気なでした。わたくしの次の年代から全日本四連覇
 するという東大ポーター部の黄金時代が、目前にあったとは、少くともわたく
 しはとても予感できませんでした。当時の須藤名コーチが、その後ポーター界全体
 のために東大以外を強くしましたから、東大は勝ちこへくくなりました。ポ
 ーターは漕ぐ姿勢動作が美しいほど力が効率的にこもり選手はとても疲れるの

です。わたくしはほとんど知らなかったが人気俳優らしい速水もこみちが主演している『シガッタ』というTVドラマが最近あり、中年のおじさんとしてもなつかしかったのです。学生のポート部生活が美しく描かれすぎていると、くすぶったかった。

理科I類から工学部計数工学科計測コースへ進みました。同じ応用物理部門として物理工学科と多くの授業が共通であり、大きな教室でのちに共産党委員長となる物理工学科の志位和夫氏を何度か見かけました。ただし、ことはを交したことはありません。

へたで弱いのにボートに夢中になり、理科系として必要な訓練をきちんと積み重ねていなかった上に、さらに三浦つとむとか、沖ヨガとか、「KJ法」とか、学外の日本文化にも夢中になり、講義と実験に関しては、大学の事務の方をハラハラさせるどうしようもない不良学生なのでした。東大にふんだんに使われている国民の血税を無駄にしごめんなさい。

学部の専門に関連し、当時から認識と数学と脳とコンピュータの関係について考える世界的難題がありました。わたくしは一方、三浦つとむの優れた認識論・言語学に深く興味があり、よくわからない講義と実験からは逃げ、才しがこの世界的難題を解いてやるぞとうぬぼれ、文京区弥生の農学部裏にある東大向ヶ岡寮の狭い汚い部屋に倒れ込んでいました。当時使っていた掃除用の青いポリバケツ、他の部屋と区別するため黒マジックで「E-6」と書いた青いポリバケツを、なぜか今でもわたくしの部屋で使っています。

主體的な認識とその一部としての数学と生理的な脳と物理的なコンピュータの区別と連関。そして「世界の必然」と「人間の認識と行動の悦び」の区別と連関。ただし、「西欧民族の認識と行動の悦び」と「日本民族の認識と行動の悦び」は異なるものでした。

今でこそ、このように概念化し、文字言語化できますが、当時の若い認識は、ただ、もやもや、もやもや、もやもや。もやもや、もやもや、もやもや。そして東大を卒業できるか、中退してしまうかという、自分の近未来は必然なのか、偶然なのか。こんなどうしようもなく追い詰められた問いを問っていたというのが、当時の内面の真実です。学校歴に生きるか、学問歴に生きるか。わたくしそれを決断してもよいのか。ハムレットの迷いではありませんが、ひとつの新しい決断への迷いでした。今にしてようやく、そのように理解できます。

東大に居たのでは問題の解決が進みにくい。まず学問環境の良い鎌倉へ移り、三浦つとむの諸著作に没頭しよう。生活費は家庭教師で稼ごう。あえて東大を中退する。

このように決断したのは、新宿歌舞伎町においででした。向ヶ岡寮を出、歌舞伎町職安通り鬼王神社の近くのご自宅にて沖ヨガと「KJ法」の教室を開いている団塊世代の先輩のところに居候していました。新宿がトンボ飛ぶ野原だったころから知っている地元のそれはそれはまじめな歌舞伎町に似つかわしくない男性でした。当時すももの千代の富士が警察だったかのポスターに出、「実力勝負」ということばが入っていました。姑息な悪に走るなどいう意味だったでしょう。ポスターの趣旨とちがいますが、そうか、このわたくしも**実力勝負**だと、勇気づけられました。

わたくしの脱東大の決断は正気であり、学者として前向きな冷静なものでした。父の事業の失敗があり、生活費・学費が不足していました。伯父さまが貸してくださいという話もあったから、経済問題とは独立の決断でした。

しかし、まわりにどう説明したらよいのか。これはもうお手挙げでした。わたくしはウソをつくくじりました。「自分はノイローゼになってどうしようもなくなった…」と、仕事の都合で沖縄にいた父と名古屋の母に手紙を書きました。「ノイローゼ」を母がぼんやり信じてしまい、たいへんに心配させました。ほんとうに、ほんとに「いじめんなさい」。父方のおばあちゃんも昔鎌倉で修業したところのあるお産婆さんで、からだもころもぶくみかどわたくしが感じる名古屋人でした。一族から東大生が出たと走りまわって宣伝してくれたいということ、すいぶんとあとで母から聞き、おばあちゃんが亡くなる前に「申し訳ありません…」とひと言お詫言ひするところができなかったたいへんな失礼を恥じております。

その後、わたくしの学問がどうなったかは、明石書店の『胸中にあり火の柱三浦つとむの遺したものとつとむ三浦つとむ先生の追悼文集』、「三浦つとむ・世界平和・一学徒」という短文を載せていただいております。関心ある方は探してご覧下さい。この本には吉本隆明さんや吉本ばなさんも短文を寄稿されています。わたしはあちこちの喫茶室「ル」を「はこ」し大切な原稿をB4白紙にシャープペンシルにて手書きすることが好きでした。自宅は北鎌倉の豪邸が居並ぶはざまの激安アパートなりました。小川に沿う風流な道から石の階段を登る畷の中腰にありました。

民族学者の川喜田二郎先生が創始した「ケージー法」は、川喜田のKとJの

の方法です。自分の未知の世界に取材し諸現象からその奥にある構造を把握していくための、事務と思索の技です。わたくしは大学の制度的な慣習的な秩序とは無縁に、一切のジャンルにとらわれない学問追究をまったく自由に行っていました。「KJ法」という技が良く役に立ちました。

ただし「KJ法」は、身のまわりの手段をいただきたいに総合していく**日本民族的な創造性**を、より継続的かつ大局的にしていけるよう、川喜田先生が編み出した事務と思索の技です。わたくしの学び方が浅いかも知れませんが、どうしても、夏目漱石『草枕』の言う「情に掉させば流される」ところがあります。「KJ法」のみでなく、現実論としての国家本質論から目的分析する、西欧民族的な目的分析ではない、新しい日本民族的な目的分析の創造性が必須であると、わたくしは判断するようになりました。もちろん後者のみでは、「智に働けば角が立つ」となります。そして手段総合も弱く目的分析も弱く「意地を通せば窮屈だ」となったのが、あの小泉首相の靖国参拝でした。西洋であれ東洋であれ、言論・弁論が巧妙な海外の大国家に対し、ああいう日本のヤンチャなパフォーマンスは、とても通用しません。たとえ動機が正しかったとしても…。

地道な手段総合と壮大な目的分析の接点からいただきたいに新しい日本国民の発言と行動を到達させていく。わたくしのJOMONあかではこれをめざしています。洗練された手段総合がJOMONであり、日本民族的な目的分析があかであり、兎角に人の世は住みにくい」という漱石先生の嘆きを、しだいに超えていきます。

靖国神社の問題については、提案があります。

まず、改名します。おびただしい戦死者を記念し、昭和天皇などに奉公しましたという意味において、〈奉公神社〉とします。

次に、新しい神社を創ります。裕仁・木戸幸一・近衛文麿・東条英機らの名目的または実質的な軍事責任者を記念し、対外的にも国内的にも自己主張が過ぎましたという意味において、〈過ぎたり神社〉とします。

さらに、これから戦死者が出る可能性があるとすれば、〈お詫び堂〉をデザインし建築します。これについては、JOMONあかでのみならず日本国新憲法案の第12条の中に記しました。ちなみに、新憲法案の末尾は、「南無日本国新憲法」としました。

靖国とは、天皇教的な発想なのであり、国民国家的な国民と政府の区別と連関がまだなく、国際法・国際慣習において、そもそも相手にされず孤立をまねくのみなのです。素材すぎます。

している「日本のお父さん」みのもんださんの司会能力には、はるかにおよびませんが…。

生活費のほうは、家庭教師のみでは安定しないから、小学生・中学生相手の学習塾教師を始めました。雇われです。青春が1970年代のわたくしと青春が1980年代の当時の塾の子どもたちとは、音楽も髪型もまるで傾向がちがうので、ちょっと驚きました。また、品川の下町伝統のある塾「すみ」にわりと長くいましたが、自分の学問に夢中で結婚などまるで考えていないうちから、子育てというこのたいへんさを痛感し、ちょっとこわくなりました。それはほんとうです。

そのうち、今度は品川の下町から銀座の並木通り五丁目「秀吉ビル」へくろ出すことになりました。「KJ」法の知人が経営するマネキン紹介所でした。マネキンとはマネキン人形でなく、百貨店の販売員である美しい女性たちです。そこはファッション部門が強い紹介所であり、当時は売上が業界の第10位くらいだったかと思います。わたくしにファッションのセンスがあるはずもなく、事務方の仕事でした。ギャラと紹介手数料に関する業界の慣習が複雑でありギャラの振込みは正確さとスピードが要求され、わりとハードな事務でした。高級百貨店で美しい接客をする女性たちですが、ギャラのことになるとただの事務の男を電話でたまたまのめす女性もいらしていました。そんな中、当時実用的になってきたパソコンをフル活用し、マネキン紹介所のシステムと会計システムをわたくしなりに試作しました。「山田さんのパソコン使いやすい」と事務方の女性がわりと長く愛用してくれました。10年後に別の職場にて事務ソフトの「弥生シリーズ」を活用する機会あり、その便利さがうれしくなりました。その「弥生シリーズ」の職場は藤圭子の旧知知人が応援する職場でした。今わたくし、**マネキン紹介**を卒業しわたくし紹介をしています。

わたくし、社会主義労働者党「横浜支部長」という役があった期間も、わずかにありました。**労働者**を愛して悪いでしようか。ただし、当時その「横浜支部員」はわたくしをぶくめ4人のみでした。この党は今、研究サークルへ後退しており、わたくしは参加していません。

さて、その党外から、「み」さんと10年以上上の女性が現れました。まじめなじめなわたくしをみて、君は文化教養面が弱いね、あちらの絵の展覧会、

こちらの音楽演奏会へと、わたくしを誘ってくれました。いくつ行ったか、ずいぶんな数になるね。「み」さんはわたくしに、君は貧乏人だから安いと探す苦勞するよと、直接口では言いませんが、何やらへらへら神戸弁でまくし立てる素敵な女でした。感謝、感謝です。

文化論をひとつ。江戸時代の『奥の細道』こそ、日本民族の原点を探る旅ではなかったかな？ どきまわりのような旅の途中で死に絶えた芭蕉：明治維新の脱亜入欧のハイカラな眼からみると、陸奥なんて、バカな旅だ。でもほんとはとても賢かったのだ。縄文の遺跡もあるじゃないか。たいへん失礼ながら、バカのふりしてとても賢い、バカボンのパパだったのだ。

俳句というものにおいて、人間とコンピュータのちがいがはっきりします。日本の伝統美を念頭にいた言語短縮の結晶。音韻にしていたったの17。

閑さや岩にしみ入蟬の声

これをワープロで書けばふりがなを入れてもたったの全角22文字つまり44バイト。1MBの2万分の1以下。ただし文字言語にもなう絵画的表現の指定に要するB数を除く。以上は、動画に必要なMB数に比べれば無視できるほど。しかしその内容は、虫の大合唱に対する人間われの内面の空。わたくし、二十一世紀の世界情報狂乱に対する、十七世紀日本の芭蕉先生の苦笑い、と受け取ります。

言語とは何か。日本語とは何か。俳句とは何か。芭蕉先生の想い。一方、O1記号のコンピュータ通信とは何か。わたくし今、日英翻訳システムの研究会に参加しています。相手の英語規範・日本語規範のあり方を予想し日本語規範の伝統を継承し健康平和に発達させる方向において自分の日本語規範を鍛練していく。そういうへ実務芸術へにわたくしは興味があります。

1996年10月16日父・山田俊郎が亡くなりました。すでにわたくしが高校生のころ、1970年代はじめ、父は名古屋大学農学部の研究を継承し、画期的な現象を発見していました。詳しくは『ソムソムあかでみい教科書1 縄文のむすび』の第五章「むすびの現象」をご覧ください。さい。IQ技術という次世代生命技術の研究開発です。おもしろい現象であり、夢中になりやすいですが、深く研究していくと、学問的にも政治的にもへ米日中各文化のバランス追求が必須であることがわかります。それ

でわたくしは、2005年11月にJOMONあかみサイトを開始しました。しいだいでJOMONを充実させます。将来は、世界のお客さまに学問と教育と芸術の満足をという、究極の商いを志します。

将来のわたくしの商業経営組織、つまり、わたくし商会は、人間としての生理の普遍性を理解しつつ、〈諸民族調和への認識の可能性〉を探り、〈労働搾取と信用寄付の階級循環〉をさせていただきに企画してまいります。そのよくな商品と店舗をさせていただき用意してまいります。わたくしの親またはわたくしが今まで購入したわたくし半生の生活手段を通し、わたくしが世界の労働者から受けている恩。それらの恩をお返しいたすべく、わたくし商会です。

それにしても、「ITQ技術」の当面の研究費のための資金繰りをどうするか。なかなか厳しい現実です。有象無象が寄ってきます。大きい金をふりかざし、のっぴうのっぴうの輩もわりと多くいます。天皇家南朝の有名武士直系を自称するある人にうまくならまわさねばなららなくなっていたとき、太宰治『人間失格』がそれなりに共感するのをええでした。世間体としては資金繰り失格かもしれない。でも、わたくしにも棄てられないところがあるはずだ。そんな中、2003年6月29日に刃傷沙汰でありました。ある海外視察があり加害者が追い込まれるような事態もあり、加害者こそは被害者だったという同情も多くありました。わたくしは加害者を応援する減刑運動をしました。混乱収拾に関し、ある政治ジャーナリストの先生に法律的な指導もいただきました。戦後日本の政治家としては珍しく大局的な視野をもつ小沢一郎氏に早くから注目した政治ジャーナリストの先生です。

わたくし、恥しながら、アコム・アイフル・プロミス・レイク・ディック・アエルに借りることもありました。わたくし五十歳に至るも結婚歴はなし。そんな時間と金があるわけありませんでした。言い訳ではありませんが、世間の恋愛・性交・出産・保育・教育を〈健康平和な次世代を生産する〉という根本から徹底して考え直したい、という欲はあります。

こんな一国民のわたくし紹介。学年にしてわたくしの1個上の安倍晋三総理に「再チャレンジ」支援をお願いするつもりはありません。

わたくし、逆襲する中退です。現実認識欲と健康平和欲がたっぷりある、やすらぎまなぶ君です。ぶつかりげい。直球勝負。わたくしは健康平和祈ります。

わが闘争、わたくしの学問生活という闘争。つまり、まじめ、ハマの悲喜劇

をようやくのこと平静に軽やかに語りおえました。ひとりの過去を反省する
冥想と独白でした。まずわたくしの半生について健康平和な現実認識の流れで
した。以上は学者が試みたノンフィクションでありすべて事実の波でありま
した。事実は小説より奇なりですよと、あなたに贈る手紙。お客さまに安心
していただく実務。わたくし日本郵便発行長野県記念切手・国宝「縄文のピ
ーナス」を愛用していました。地方を大切にす郵便局文化はリニューアル
してむしろ強化したいです。女ごころと秋の空ではなくて、偏差値の高い低
いも秋の空。東大中退という珍しい学校歴の後輩たるホリエモン君もこのわ
たくし紹介書を参考書にしてください。わたくしは学者であり事務屋であり
将来は語るように歌う教師志願であり、人がまねしたくなる美しさは地道に
地道に磨いていくしかありません。千里の道も一歩から。

わたくしは尊いのです。
だからこそあなた尊し。
学者たち尊いのです。
だからこそ民衆尊し。
大人たち尊いのです。
だからこそ子ども尊し。
寂しさ、だから、連帯へ。

追伸。わたくしがどういう母により育てられたか？ 山田ことぢ『綿毛がとんだ新
しい女、鮮烈の軌跡』（同時代社1992年）を読めばわかります。母・山田ことぢは
朝日新聞の「ひととき」欄に投稿する女性サークル「いずみの会」とともに歩ん
きた女性です。ただし、長男のわたくしは東京新聞（中日新聞）のほうが好きです。

2006年10月16日 父・山田俊郎の10年目の命日に偉大なる彼を追想しつつ。

JOMONあかでみい校長・山田 学◎

※へ日本民族の認識と行動の悦びのためこの研究用品の普及を願
います。はるかに北極星をみつめつつ…。

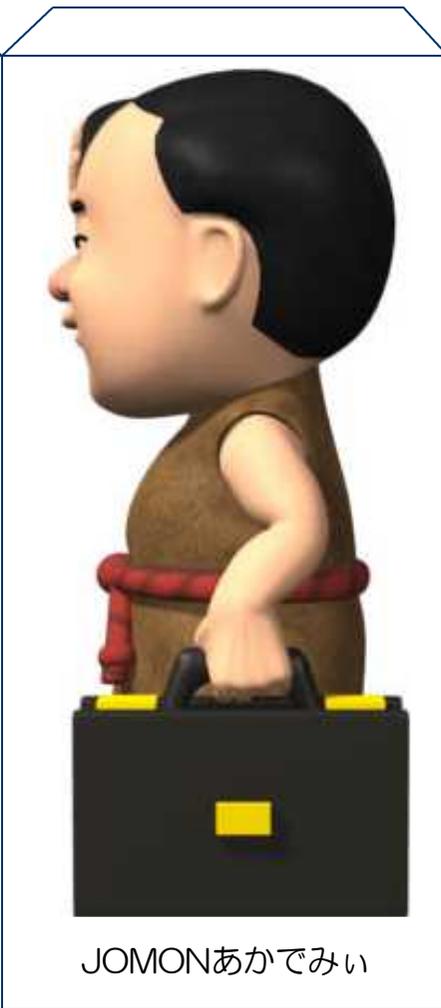
山田学

☆情念融和の事実報告品質には万全を期しております。ご不満あれば拝聴いた
します。似たような事実報告と意見あれば歓迎いたします。

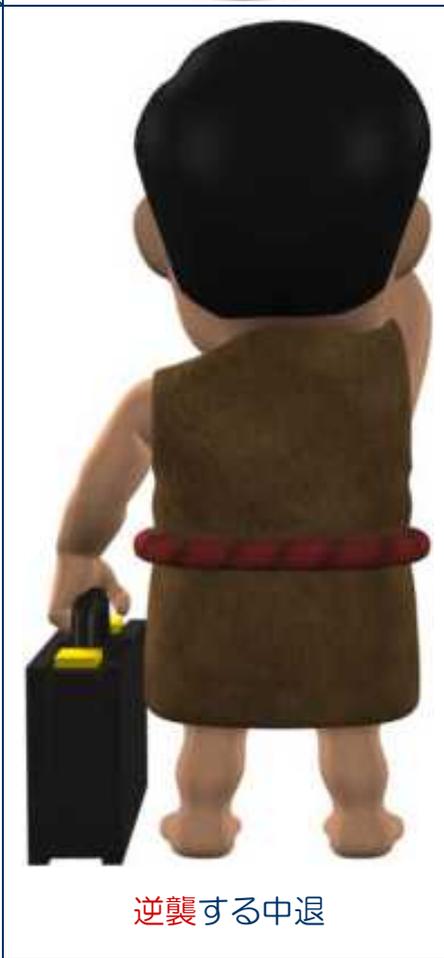
平面からきりとり四角柱に組み立ててください。



やすらぎまなぶ



JOMONあかでみい



逆襲する中退



www.jomaca.join-us.jp